

■「効果の見える治水事業」

香川県 別当川総合開発事業（内海ダム再開発）

香川県土木部河川砂防課長 阿部 孝雄



別当川は、小豆島の東南部香川県小豆郡小豆島町に位置し、その源を名勝寒霞溪（神懸山：標高671m）に発し、山間部を南流し、途中小豆島町神懸通、草壁本町を貫流して、小豆郡小豆島町草壁本町地先で内海湾に注ぐ流域面積 8.8km²、流路延長 4.0km の二級河川です。

本河川は、急勾配の河川であり、その下流域では、古くから洪水による被害がたびたび発生しています。昭和 34 年にコンクリートと土石の混成堤である旧内海ダムが完成しましたが、集水面積に比べ洪水調節容量が小さいことから、昭和 36 年の台風 17 号により、ダムの上部から越流し、ダム堤体下流の土石部分が流出してしまいました。



昭和 49 年と 51 年の降雨では、大雨により川が氾濫し、護岸の被災や住宅の浸水など大きな被害が発生しており、抜本的な治水対策を図る必要があります。

一方で、小豆島町は瀬戸内式気候に属し、降水量が少ないため、たびたび深刻な水不足に見舞われており、水不足の際には緊急的に給水船やため池からの取水に頼るなど、不安定な水源に依存せざるを得ない状況であり、水源の安定化を図る必要があります。

このように治水・利水の両面から早急な対策が望まれており、内海ダム再開発事業を進めてきました。

本事業では「周辺地域の豊かな自然資源と調和のとれた、よりよい景観形成を図る」ため、有識者や地元の代表の方々から構成される「内海ダム景観検討委員会」を設置し、これまで 9 回にわたる審議を経て、景観や環境に配慮した整備を実施しています。

現地の施工については、平成 18 年度から工事着手した付替道路は平成 23 年 9 月に全線供用開始しました。また、平成 21 年度から着手したダム本体工事も昨年 9 月にコンクリート打設が完了し、本年 4 月 24 日には竣功式を開催することができました。

今後は、引き続き地元の方々のご理解・ご協力を得ながら、残る周辺環境整備等を実施し、平成 25 年度中の事業完成を目指してまいります。



新旧ダム比較表

諸元	単位	旧内海ダム	内海ダム
型式		コンクリート土石混成堤	重力式コンクリート
堤長	m	21.0	43.0
堤頂長	m	143.0	423.0
堤体積	m ³	30,200	165,000
集水面積	km ²	3.7	4.8
湛水面積	km ²	0.01	0.08
総貯水容量	m ³	140,000	1,060,000
有効貯水容量	m ³	125,000	915,000

『オリーブライフ小豆島〜煌く海、瞳輝く、実りのまち』

小豆島町長 塩田 幸雄



小豆島町は、瀬戸内海国立公園に浮かぶ小豆島の中央から東に位置し、海と山の美しい自然に恵まれた町です。壺井栄の小説「二十四の瞳」の舞台として、また、日本におけるオリーブ栽培発祥の地として、全国的に知られています。

小豆島町とオリーブの関わりは、明治 41 年、当時の農商務省が三重、香川（小豆島）、鹿児島 の 3 県を指定して、アメリカから輸入した苗木で試験栽培を行い、小豆島町に植えたオリーブだけが順調に成長し、大正初めには搾油ができるまでになりました。オリーブが健康によいことは医学的にもよく知られており、小豆島町ではオリーブによる健康長寿の島づくりに取り組んでいます。

本年 4 月 26 日に長年のオリーブの緑化活動と花いっぱい運動の取り組みが評価され、「みどりの式典」において緑化推進運動功労者として内閣総理大臣から表彰されました。この受賞を契機にオリーブ栽培面積の拡大やオリーブによる健康増進の実現など、オリーブのブランド力の向上を図るとともに、より一層の花づくり



をはじめとした緑化活動を推進していきます。

また、「二十四の瞳」の映画撮影時のセットを保存した「二十四の瞳映画村」があり、多くの観光客で賑わっています。その他、日本三大渓谷美に数えられる寒霞溪、18 世紀頃に始まり現在も伝承されている農村歌舞伎舞台など、数多くの観光スポットを有しています。



瀬戸内国際芸術祭 2013

3 月 20 日から開催されている「瀬戸内国際芸術祭 2013」では、小豆島の 5 つの地区（土庄、肥土山・中山、三都半島、醬の郷、福田）において国内外の芸術家が地域資源を活かした作品を展開しています。醤油・佃煮の地場産業が盛んな醬の郷地区で地域資産を生かしたアートプロジェクトを展開し、農村歌舞伎舞台や棚田が広がる中山地区・日本の原風景の残る三都半島で自然と歴史文化を生かした作品が展示されます。また、大阪築城時からの歴史を有する石材のまちの福田地区ではアジアの芸術家を中心とした作品が展示されるなど、小豆島の魅力を県内外に発信しています。

小豆島の気候は温暖少雨の瀬戸内海式気候であり、年間降水量は 1200mm 程度で、従来からたびたび水不足に悩まされている一方で、多くの河川は、山間部が急勾配で平野部に出て急に勾配が緩くなるという地形的特長を有しているため、昭和 49 年災、51 年災に代表される台風や集中豪雨による大災害にも見舞われています。

行政に課せられた、「住民の皆さんの生命と財産を守る」という最大の使命をしっかりと果たしていくために、昭和五十九年度の予備調査開始から数えますと実に三十年近くの年月をかけて進められてきました内海ダム建設が 4 月 24 日に竣功式を迎えられましたことを、心からよこんでいます。

行政に課せられた、「住民の皆さんの生命と財産を守る」という最大の使命をしっかりと果たしていくために、昭和五十九年度の予備調査開始から数えますと実に三十年近くの年月をかけて進められてきました内海ダム建設が 4 月 24 日に竣功式を迎えられましたことを、心からよこんでいます。



昭和 51 年台風 17 号被災状況



給水船による支援給水(平成 7 年)